

<ジブチ事業> 「子どもたちの自信につながる『子ども議会』」



ICAN ジブチ事務所
川口 彩子
～プロフィール～
大学院で国際関係論を専攻後、アフリカに渡り、政府開発援助機関に従事。2018年8月より現職。

ある日のスケジュール

- 08:00 メール及びスケジュール確認
- 09:00 週例会議
- 10:00 予算申請書作成
- 13:00 事業計画作成
- 14:00 フィールドスタッフとの打ち合わせ
- 15:00 研修報告作成
写真整理
- 16:30 出張予定確認
- 17:00 帰宅

アリアデ難民キャンプ（主にソマリア難民が居住）と、ホルホル難民キャンプ（主にエチオピア難民が居住）において、「子ども議会」を開催しました。「子ども議会」とは、子どもたちが模擬議会を実施し、自分たちに関係のある議題について意見を交わすと同時に、意思決定プロセスを理解することで、ライフスキルの向上を目指したものです。これまでキャンプの子どもたちは、自分の意見を言ったり、何かを決めたりする機会は殆どありませんでした。そのため、キャンプでは初の試みとなり、11月に実施された「第1回子ども議会」では子どもはもちろん大人にも意義や目的について十分理解してもらい、その上で、子どもたちが自分たちの代表を選出するところから始めました。

第1回では決められた議題について話しましたが、第2回となる今回は、子どもたち自身が議題を決め、キャンプの課題について意見を出し、その解決方法について話し合いました。「薪集めに時間がかかり学校に行けないため、ガスが必要だと思う」「学校へ行くよりも家で働いてほしいと思う保護者もいるため、子どもの権利について親に啓発活動をする必要がある」といった意見もあり、手探りながらも、子どもたち中心となった議会を実施することができました。特に一番関心が高かったのは教育で、「もっと色々な教科を教えて欲しい」「図書館が欲しい」等の、学校や教育省に対して要請を出すといった内容でしたが、中には、「高学年の子どもが低学年の子供に勉強を教える時間を放課後に設ける」や「朝早く学校に行き、グループ学習を実施する」等、自分たちが率先してできるような案も出されました。振り返りの時間には、「今まで人前で話したことがなかったけれど、色々な議題について話せて楽しかった」「次は、キャンプにいる障がい者や高齢者の人々をどうやって助けられるかみんなで話したい」「キャンプで開催される大人の居住区会議にも子ども代表として参加したい」など積極的な意見が多く出されました。特に議長を務めた子どもの成長は目を瞠るほどで、後日キャンプを訪れた際にも誇らしげに自分の役割について話しかけてくれました。



今後も、より多くの子どもたちが、同じように自信を持てるよう、新しい子どもたちを対象とした「子ども議会」も継続して実施していく予定です。また、これまで参加してくれた学校の先生やコミュニティリーダーにもより多くの参加を求めることで、子どもたちの声が大人に届き、子どもの権利についての理解が促進されるよう、アイキャンとして活動していきます。

フィリピン事業（マニラ・路上） 12月7日/マニラ（フィリピン）

児童養護施設「子どもの家」の2階部分建設が開始



12月7日から「子どもの家」敷地内での作業が始まりました。「子どもの家」に住むエイドリアン君（10歳）は、「建設が行われている間は学校へ行っているの、日常生活への支障はありません。安全上、建設現場へ

近づくことが出来ませんが、2階が出来るのをとても楽しみにしています。もっと多くの仲間が増えるといいな、と思います。」と期待に胸をふくらませました。

街頭募金

12月15日/愛知

街頭募金ボランティア、7名が初参加



フィリピンの路上の子どもたちを応援する街頭募金に15名（うち7名は初参加）のボランティアの方々にご協力いただきました。初参加の高校生は「自分の想いや声を届けること・人の心を動かすことの難しさ

を感じた。でも1番感じたのは人の暖かさだった。『寒中お疲れ様』『頑張ってるね』等の暖かいお言葉を通行人の方がかけて下さったことが嬉しかった。」と感想を話してくれました。

フィリピン事業（ミンダナオ島事業）12月17日/コタバト（フィリピン）

ユニセフ事業が始まります



ユニセフ助成による地域の関係者との対話を通じた平和構築事業が開始しました。新規事業のオリエンテーションにアイキャン職員3名が参加し、事業実施のスケジュールや地域への調査内容について話し合いました。リーダーのジェスは、「真の

平和とは、地域レベルで発生する家族間の争いの平和的解決が定着することだと感じる。本事業を通して、地域レベルの平和を確立していきたい。」と意気込みを語りました。

NGO 相談員

12月24日/大阪

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth に参加



大阪で開催されたワン・ワールド・フェスティバル for Youth に NGO 相談員として参加しました。ボランティア活動、NGO への就職、留学に関する質問をいただき、大学生の男性からは「NGO と外務省の違いや両者の繋がりについてよくわかった。

また、NGO を目指すために大学のうちに取り組むべきことを聞けたため、1年、2年先のタイムラインを意識できるようになった。」との声をいただきました。